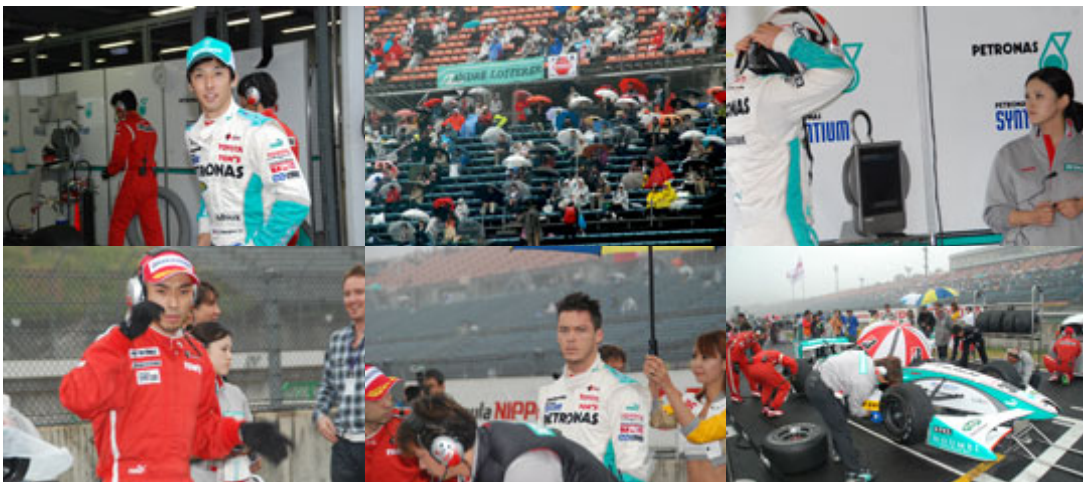


4. 最後まで威風堂々たる走り



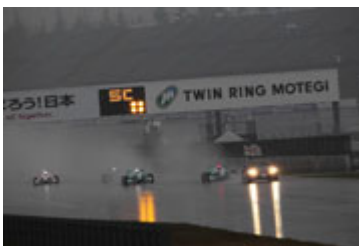
◆レース 2 (34Laps)

雨は小降り、ウォームアップ走行に、二台共にスリックタイヤでコースイン。ダミーグリッドに付くなり、雨は徐々に強くなり始めた。車高を上げるなど変更を施すため、メカニックは大忙し。そしてレインタイヤへ変更するチームも出始めた。TOM'S は、ぎりぎりまで待ったが、雨量は増すばかり。最終的にタイヤを履き替え、全車レインタイヤでレース 2 がスタートした。





スタート直後、再び TOM'S は、ワンツー体制を築き 1 コーナーを通過するが、ロッテラー選手から中嶋選手を含む後続のクルマは、ウォータースクリーンで前が全く見えない状態。雨量も時間を追うごとに増し、コースにも雨がたまっていく。そんな中、TOM'S の二台、殊にロッテラー選手は、雨など全く関係なくプッシュし、中嶋選手を大量リード。その中嶋選手もロッテラー選手と若干離れているものの、3 番手のクルマには大きく水をあける状況だった。そして迎えた 9 周目、ヘアピンで他車同士が接触、パーツが散乱している為、セーフティカーが導入された。



そして、セーフティカー先導で周回し、隊列を整えようとしていた 11 周目、雨でブラインドになった事が原因による多重クラッシュ発生。これにより赤旗が呈示されレースは中断した。ピットにいったん戻ったロッテラー選手と中嶋選手。ロッテラー選手は、「レースの続行は無理だよ」とスタッフに話していた。それほど危険な状況だった。

しかし、しばらくすると、再開のアナウンスが流れ、グリッドに戻った。各チームには、グリッド上で 5 分間の作業時間が与えられた為、TOM'S は車高を若干上げ、深溝のタイヤを装着するなどした。19 分間の中断ののち、セーフティカー先導によりスタート。その後、15 周目からレースは再開した。ここでもまた抜群のスタートを決めたロッテラー選手は、赤旗中断により失ったギャップをあっという間に挽回、圧倒的な速さで周回を重ねていく。中嶋選手も食い下がったものの、ロッテラー選手の速さに中々追いつけず。その後、やや膠着状態のままレースは進み、34 周を走り終えロッテラー選手が完全勝利、中嶋選手は 2 位となり、TOM'S の二台は無事にチェッカーを受けた。レース終了後、中嶋選手のルーキーオブザイヤー獲得も発表された。





▽レース後のコメント



ロッテラー選手

「悪いコンディションの中で戦ったレースだが、予選で良い位置をキープできたおかげで自分に大きなアドバンテージがあったので、レースは楽しめた。今シーズンを振り返ると、シーズン通して良い戦いができ、パーフェクトな週末を送ることができて良かったと思う。日本に来てから、ずっと

フォーミュラ・ニッポンのチャンピオンになりたいと言うのが夢で、SUPER GT のチャンピオンも二回獲得したし、目標をすべて獲得できたのでうれしい。それはチームのサポートがあって成しえた結果である。今年は、海外との往復が多く、細かい点まで関わることができない場面もあった。それでも、チームはいつも自分の事をサポートしてくれた。ルマン 24 時間出場の為、1 レース欠場することになったが、舘会長はこれを許してくれ、その代わりにチャンピオンを獲得することを約束した。最後にその約束も果たせ、また完璧な週末を最後に送ることができてうれしい」

中嶋選手

「あまりエンジョイできるレースではなかった。前にクルマがいる以上、視界は悪いし想像以上に雨の量も多く難しいレースだった。スタートで前に出られなかった事が敗因。失うものが何もなかったので、プッシュして最後まで集中力を切らさないようにしたという点では満足している。スリックかレインか迷うような状況でスタートしていたら、レースはおもしろかったかもしれない。今シーズンは、ずっとアンドレを追いかける状態だったが、一緒に走ることができて良い経験になったと思う。チームは、レースに必要なすべての仕事を完璧にこなし、クルマの仕上がりもレースごとにどんどん良くなって、

2011 チャンピオンへの軌跡

最後ポールポジションも獲得できるまでになった。チーム力もあがりとても良いシーズンだったと思う。自分に関しては、ルーキーとは思っておらず、そういう立場であることを考えて走ってきた。チャンピオンを獲る気持ちでやってきたので、2位というのは悔しい。来シーズンまたチャレンジをして、チャンピオンを獲得したい」

館監督

「ドライバー、スタッフに心からお礼を言いたい。メカニックにエンジニア、本当によくやってくれた。今までポールポジションがなかったので、それも達成でき、チャンピオンになれ、何も言うことはない」